

第72回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成22年10月～12月期

平成22年10～12月期の国内景気は、海外経済の減速やエコカー補助金の打ち切りといったマイナス要因が見込まれたが、一方では家電エコポイント制度の変更に伴う駆け込み需要があり、生産関連の指標や株価など市況は予想より底堅く、不安が先送りされた状況となっている。

トラック運送業界でも、前回調査では10～12月期の指標悪化を見込んでいたが、実績は▲35で、前回（▲45）から10ポイント改善した。指標の改善は2四半期連続。

平成23年1～3月期の見通しは再び弱含みで推移し、判断指標は▲51と16ポイントの悪化が見込まれている。

平成23年1月31日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成22年10月～12月期）の状況

(1)概況

平成22年10～12月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は11%で前回（11%）と変わりなかったものの、「悪化」とした事業者は40%（前回48%）に減少した。この結果、判断指標は▲35となり、前回から10ポイント改善した（前回▲45）。指標の改善は2四半期連続。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物、一般貨物とも、前回からやや改善した。

(2)特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が44%、「増加」とする事業者が24%で、判断指標は▲30となり、前回（▲45）から15ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が44%、「増加」とする事業者が21%で、判断指標は▲35となり、前回（▲48）から13ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が11%で、判断指標は▲51となり、前回（▲64）から13ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が28%で、判断指標は▲16となり、前回（▲23）から7ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が40%、「増加」とする事業者が26%で、判断指標は▲21となり、前回（▲24）から3ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が38%、「増加」とする事業者が15%で、判断指標は▲29となり、前回（▲44）から15ポイント改善した。

(3)一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33%、「増加」とする事業者が25%で、判断指標は▲12となり、前回（▲19）から7ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が35%、「増加」とする事業者が25%で、判断指標は▲13となり、前回（▲22）から9ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が42%、「増加」とする事業者が17%で、判断指標は▲30となり、前回（▲36）から6ポイント改善した。

(4)運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲39（前回▲35）、宅配以外の特積貨物は▲30（前回▲30）、一般貨物は▲21（前回▲27）であった。宅配貨物では弱含んでいるが、一般貨物では下げ止まりの傾向がみられる。

(5)実働率等

実働率は▲8（前回▲15）、実車率は▲7（前回▲14）で、ともにやや水準を上げている。

雇用状況（人手の過不足）は+5（前回▲6）でほぼ過不足はなく、また9四半期ぶりにプラスとなった。採用状況は▲8（前回▲8）でほぼ前年並み、所定外労働時間も▲4（前回▲11）とほぼ増減なしの水準となった。

保有車両台数は▲14（前回▲18）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲15（前回▲20）で、緩やかながら改善がみられる。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、中部、四国、近畿、中国は相対的に水準が良く、前回からの改善もみられる。一方で、多くの地域が改善をみる中、北海道と北陸信越は前回よりも水準を下げ、とくに北海道は厳しい。

事業者の規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物は相対的に水準が高い。建設関連貨物は水準は低いものの、前回と比べると改善している。

2. 今後（平成23年1月～3月期）の見通し

(1) 概況

平成23年1～3月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲51で、今回から16ポイント悪化する見込み。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入は足踏みするが、営業利益はやや改善する見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益ともやや水準を下げる見込み。

(3) 一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも水準を下げる見込み。

(4) 運賃水準

宅配貨物、宅配以外の特積み貨物、一般貨物とも大きな変化はない見込み。

(5) 実働率等

実働率、実車率とも、水準を下げる見込み。

雇用状況は、人手の過不足はない見込み。採用状況は横ばい、所定外労働時間は水準を下げる見込み。

保有車両台数はほぼ横ばいが続く見込み。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はやや水準を下げる見込み。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、北海道は引き続き最も水準が低い見込み。またすべての地域で指標の悪化が予想されており、特に中国は下げ幅が大きい見込み。

事業者の規模別では、各規模とも水準を下げる見込み。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物は引き続き水準が低い見込み。また、機械関連貨物を筆頭に、すべての品目で水準を下げる見込み。

3. 特積貨物の概況

項 目		概 況	
宅	輸送数量		(-45) (-30) (-34)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より改善した。地域別では中国、北海道は厳しく、東北、四国、北陸信越は相対的に良い。前回と比べると、東北は大きく持ち直した。 ・ 今後はわずかに悪化し、水準としてはやや減少が続く見込み。 		
	営業収入 (売上高)		(-48) (-35) (-35)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より改善した。地域別では中国、北海道は厳しく、近畿は相対的に良い。前回と比べると、東北、関東は大きく持ち直した。 ・ 今後は今回と同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。 		
貨	営業利益		(-64) (-51) (-44)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より改善した。地域別では中国、北陸信越、北海道は厳しい。前回と比べると北陸信越、中国は下げ幅も大きい。東北、近畿は相対的に良く前回からの持ち直し幅も大きい。 ・ 今後もやや改善するが、水準としてはやや減少が続く見込み。 		
	運賃・料金の水準		(-35) (-39) (-38)
物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より僅かに水準を下げた。地域別では北陸信越は下落で、前回からの下げ幅も大きい。近畿、東北、中国は相対的に良く、持ち直しがみられる。 ・ 今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。 		

【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
今回は平成22年12月30日に配布。
平成23年1月25日到着分までを集計。
- ◆回収率：68.3%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	2 5 6	6 4 4	9 0 0
回収数	1 2 0	4 9 5	6 1 5

項 目		概 況	
宅配	輸送数量	<p>前回 1 (23, 37, 32, 8) (-23) 今回 0 (28, 33, 33, 6) (-16) 見通 0 (17, 46, 32, 4) (-24)</p>	<p>・前回よりやや水準を上げた。地域別では四国は相対的に厳しい。北陸信越は前回からの下げ幅が大きい。 ・今後は今回より水準を下げ、やや減少となる見込み。</p>
	営業収入 (売上高)	<p>前回 1 (21, 40, 31, 8) (-24) 今回 0 (26, 34, 34, 6) (-21) 見通 0 (14, 49, 31, 6) (-30)</p>	<p>・前回とほぼ同様であった。地域別では北海道、四国、東北、北陸信越は相対的に厳しい。北海道、北陸信越は前回からの下げ幅も大きい。 ・今後はやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。</p>
特積	営業利益	<p>前回 0 (12, 43, 36, 10) (-44) 今回 0 (15, 47, 31, 7) (-29) 見通 0 (10, 54, 30, 6) (-33)</p>	<p>・前回から改善した。地域別では北海道は厳しく、近畿、北陸信越は相対的に良い。特に近畿は前回からの持ち直し幅も大きい。九州は持ち直しつつあるものの水準はまだ低い。 ・今後はわずかに水準を下げ、やや減少が続く見込み。</p>
	運賃・料金の水準	<p>前回 0 (3, 69, 23, 5) (-30) 今回 0 (2, 70, 25, 3) (-30) 見通 0 (2, 70, 25, 3) (-29)</p>	<p>・前回と同様であった。地域別では、北海道、近畿は前回から持ち直し、下落に歯止めがかかった。 ・今後も今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。</p>

凡例

	大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや	増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい		0点
	やや	減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に	減少・低下・悪化・人手過	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1~+2、横ばい0、減少・悪化-1~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = a₁+a₂+a₃+a₄+a₅ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = { (+2×a₁) + (+1×a₂) + (0×a₃) + (-1×a₄) + (-2×a₅) } ÷ A × 100

4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
<p>輸送数量 (全 体)</p>	<p>・前回からやや改善した。地域別では東北、北海道はやや水準が低いものの、前回よりは持ち直している。品目別では、建設関連貨物は相対的にやや厳しい。 ・今後は今回より水準を下げ、やや減少となる見込み。</p>
<p>営業収入 (売上高)</p>	<p>・前回よりやや改善した。地域別では北陸信越の水準が相対的に厳しく、唯一前回から指標を悪化させている。品目別では機械関連貨物は相対的に良いものの改善傾向に陰りがみえる。 ・今後は今回より水準を下げ、やや減少となる見込み。</p>
<p>営業利益</p>	<p>・前回よりやや改善した。地域別では四国、中国は相対的に良い。特に四国は前回からの持ち直し幅も大きい。規模別では、大規模事業者の水準が相対的に良い。品目別では機械関連貨物は相対的に良いものの改善傾向に陰りがみえる。 ・今後は悪化し、やや減少が続く見込み。</p>
<p>運賃・料金の水準</p>	<p>・前回よりやや改善した。地域別では中国、東北、四国、関東は相対的に良く、前回からの持ち直しもみられる。品目別では建設関連貨物の水準は相対的に厳しいが、全ての品目で下げ止まりの傾向がみられる。 ・今後は今回と同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。</p>

5. 共通の概況

項 目	概 況
<p>実働率</p>	<p>・前回よりやや改善している。地域別では東北、北海道はやや水準が低い。規模別では規模が大きくなるほど水準が良い。品目別では建設関連貨物でやや水準が低い。 ・今後は今回より水準を下げ、やや低下となる見込み。</p>
<p>実車率</p>	<p>・前回よりやや改善している。規模別では規模が大きくなるほど水準が良い。品目別では建設関連貨物でやや水準が低い。 ・今後はやや悪化するものの、水準としてはほぼ横ばいが続く見込み。</p>
<p>雇用状況 (人手の過不足)</p>	<p>・人手の過不足感はほぼない。地域別では、東北、四国を除くすべての地域で指数がプラスとなっている。 ・今後も人手の過不足はほぼない見込み。</p>
<p>採用状況</p>	<p>・前回と同様であった。地域別では九州、北海道は相対的に水準が低い。 ・今後も引き続き前年並みの見込み。</p>
<p>所定外労働時間</p>	<p>・前回より指数はやや改善した。地域別、規模別、品目別では大きな差はみられなかった。 ・今後は指数は下がるものの、水準としては引き続き前年並みの見込み。</p>

項 目	
保有車両台数	<p>前回 0 6 72 21 2 (-18) 今回 0 5 77 18 1 (-14) 見通 0 5 80 15 1 (-12)</p>
<p>・前回より指数は僅かに改善した。地域別では中部、北陸信越は相対的に水準が低い。規模別、品目別では大きな差はみられなかった。</p> <p>・今後も今回とほぼ同様で、水準としては横ばいの見込み。</p>	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p>前回 1 11 60 22 6 (-20) 今回 1 11 63 21 4 (-15) 見通 0 7 67 22 4 (-22)</p>
<p>・前回よりやや改善した。地域別では北海道、関東、中部、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物で相対的に水準が低い。</p> <p>・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少となる見込み。</p>	
経常損益	<p>前回 1 14 44 34 6 (-30) 今回 1 16 47 31 5 (-23) 見通 0 10 51 33 7 (-36)</p>
<p>・前回よりやや改善した。地域別では東北、北海道、北陸信越は相対的に厳しく、中国、近畿は相対的に良い。規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物は相対的に厳しい。</p> <p>・今後は水準を下げ、やや悪化の見込み。</p>	
業界の景況感	<p>前回 1 10 41 40 8 (-45) 今回 0 11 48 34 6 (-35) 見通 1 6 45 39 9 (-51)</p>
<p>・前回より10ポイント改善した。地域別では北海道が厳しい。中部、四国、近畿、中国は相対的に良い。品目別では機械関連貨物が相対的に良い。</p> <p>・今後は16ポイント水準を下げ、やや悪化の見込み。</p>	

6. 事業者特性格別の特徴

事業者特性	特 徴																																								
<p>① 地域（注4）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は、全国順位9位のままで、景況感は変化なし。 ・東北は、全国順位7位から5位に上がり、景況感は改善。 ・北陸信越は、全国順位2位から7位に下がり、景況感はやや悪化。 ・関東は、全国順位6位のままで、景況感はやや改善。 ・中部は、全国順位1位を継続し、景況感改善。 ・近畿は、全国順位3位のままで、景況感改善。 ・中国は、全国順位5位から4位に上がり、景況感改善。 ・四国は、全国順位4位から2位に上がり、景況感改善。 ・九州は、全国順位8位のままで、景況感改善。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">H 2 2 年 7～9月期</th> <th style="text-align: center;">H 2 2 年 10～12月期</th> <th style="text-align: center;">H 2 3 年 1～3月期見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>中 部</td> <td>中 部</td> <td>近 畿</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>北 陸 信 越</td> <td>四 国</td> <td>中 部</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>近 畿</td> <td>近 畿</td> <td>四 国</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>四 国</td> <td>中 国</td> <td>関 東</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>中 国</td> <td>東 北</td> <td>北 陸 信 越</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>関 東</td> <td>関 東</td> <td>東 北</td> </tr> <tr> <td>7位</td> <td>東 北</td> <td>北 陸 信 越</td> <td>九 州</td> </tr> <tr> <td>8位</td> <td>九 州</td> <td>九 州</td> <td>中 国</td> </tr> <tr> <td>9位</td> <td>北 海 道</td> <td>北 海 道</td> <td>北 海 道</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>— 文字の凡例 —</p> <p>標準文字: やや悪化</p> <p>ゴシック: 悪化</p> <p>反転文字: 強い悪化</p> </div>		H 2 2 年 7～9月期	H 2 2 年 10～12月期	H 2 3 年 1～3月期見通し	1位	中 部	中 部	近 畿	2位	北 陸 信 越	四 国	中 部	3位	近 畿	近 畿	四 国	4位	四 国	中 国	関 東	5位	中 国	東 北	北 陸 信 越	6位	関 東	関 東	東 北	7位	東 北	北 陸 信 越	九 州	8位	九 州	九 州	中 国	9位	北 海 道	北 海 道	北 海 道
	H 2 2 年 7～9月期	H 2 2 年 10～12月期	H 2 3 年 1～3月期見通し																																						
1位	中 部	中 部	近 畿																																						
2位	北 陸 信 越	四 国	中 部																																						
3位	近 畿	近 畿	四 国																																						
4位	四 国	中 国	関 東																																						
5位	中 国	東 北	北 陸 信 越																																						
6位	関 東	関 東	東 北																																						
7位	東 北	北 陸 信 越	九 州																																						
8位	九 州	九 州	中 国																																						
9位	北 海 道	北 海 道	北 海 道																																						
<p>② 規模（注5）</p>	<p>・業界の景況感は、規模が小さくなるほど水準は低いものの、前回との比較では小規模事業者を含む各規模で改善した。</p>																																								
<p>③ 品目（注6）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費関連貨物は、前回から水準を上げた。一般貨物の輸送数量では、特種品、日用品などを中心に持ち直した。今後は水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物は、品目別では最も厳しいが、前回よりは改善している。一般貨物の輸送数量では、窯業品、鉱産品、林産品、金属製品など幅広い品目で持ち直した。今後は水準を下げる見込み。 ・機械関連貨物は、やや水準を上げ、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、電気機械は水準を上げたが、輸送機械はやや下げた。今後は水準を下げる見込み。 ・その他貨物は前回とほぼ同様であった。一般貨物の輸送数量では、繊維製品、紙・パルプなどで持ち直しがみられた。金属製品は頭打ち。今後は水準を下げる見込み。 																																								

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

（注5）規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

（注6）品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覽表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全 体		↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地 域	北海道	↘	↘	↓	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	東北	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	北陸信越	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘
	関東	↓	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	→	↘
	近畿	↘	→	→	↘	→	→	→	→	↘	→	→	→	↘	→	→
	中国	↘	↓	↓	→	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	→	↘	↘
	四国	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	→	→
	九州	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
事業 者 規 模	小規模事業者	↓	↓	↘	↓	→	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	↘
取 り 扱 い 品 目	消費関連貨物	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	→	↘
	建設関連貨物	→	↘	→	→	↘	→	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	機械関連貨物	↘	↓	↘	→	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	↘	↘
	その他貨物	↘	↓	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

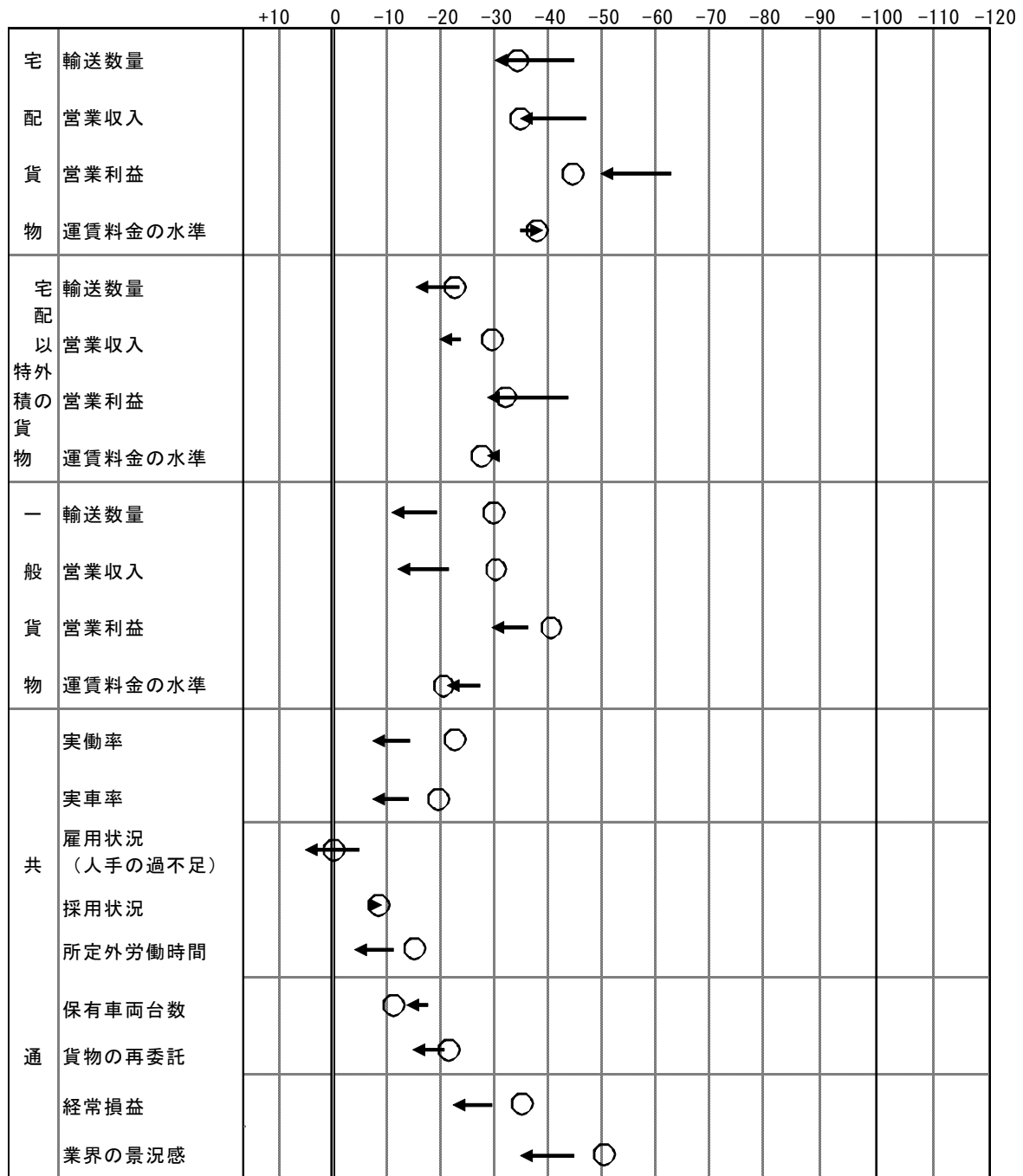
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(7-9月) 中央:今回(10-12月) 右:見通し(1-3月)

・矢印と判断指標の対応

判断指標	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢 印	↓ ↓ ↘ → ↗ ↑ ↗

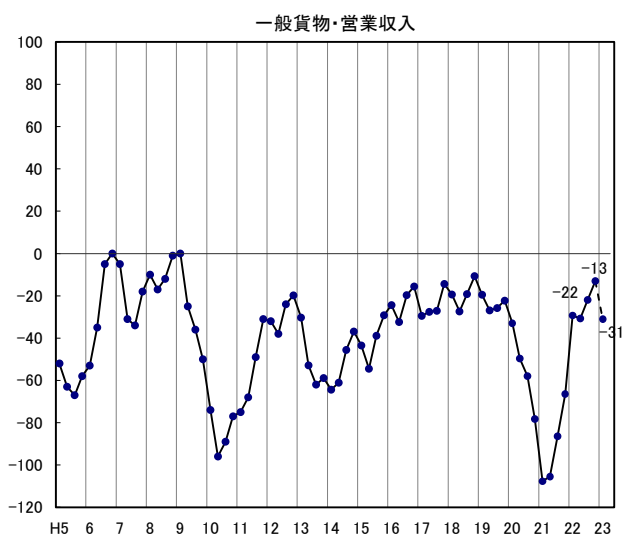
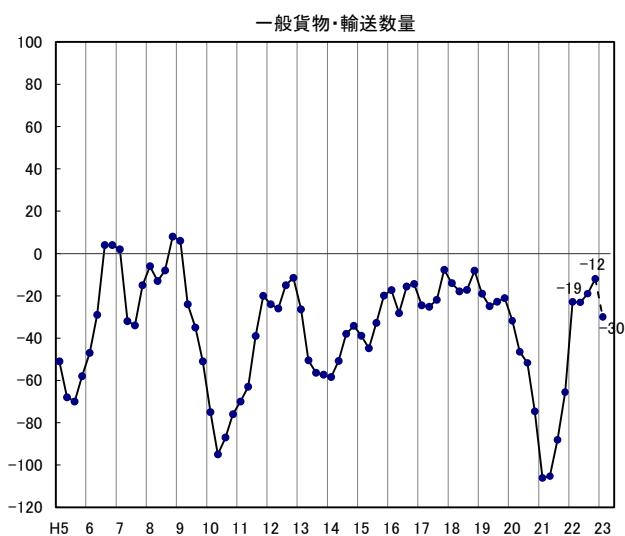
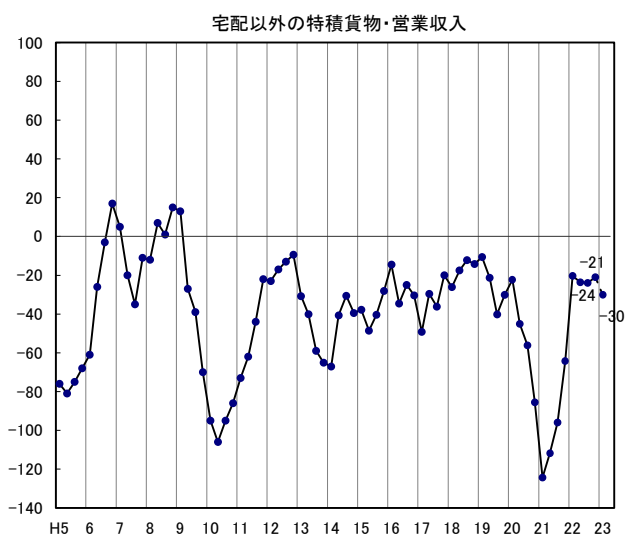
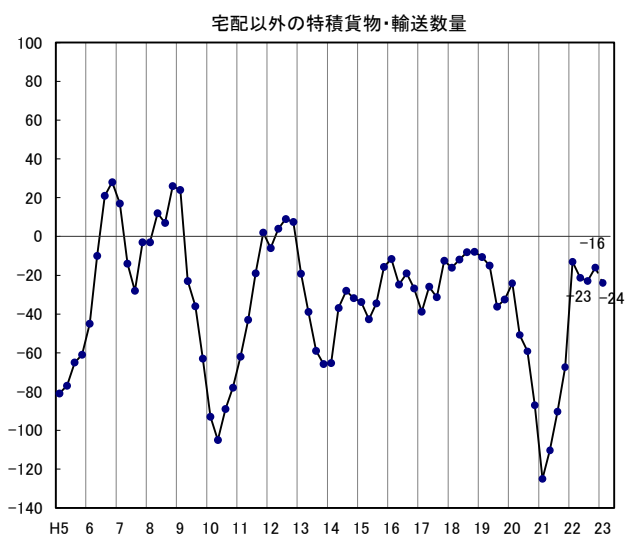
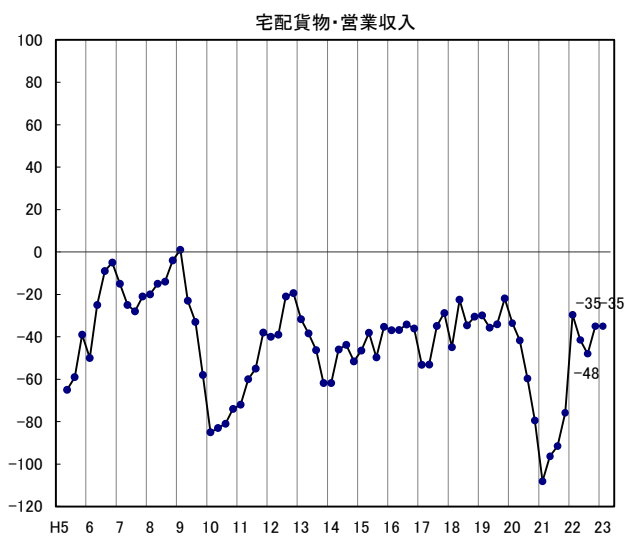
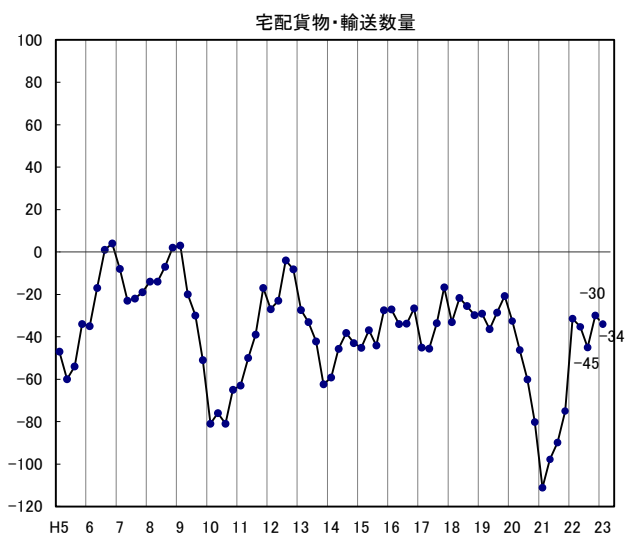
8. 業況判断指標の前回調査（平成22年7月～9月期）からの変化



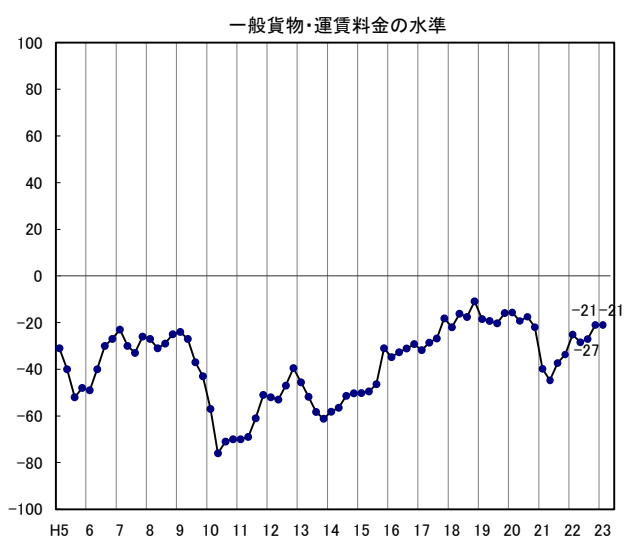
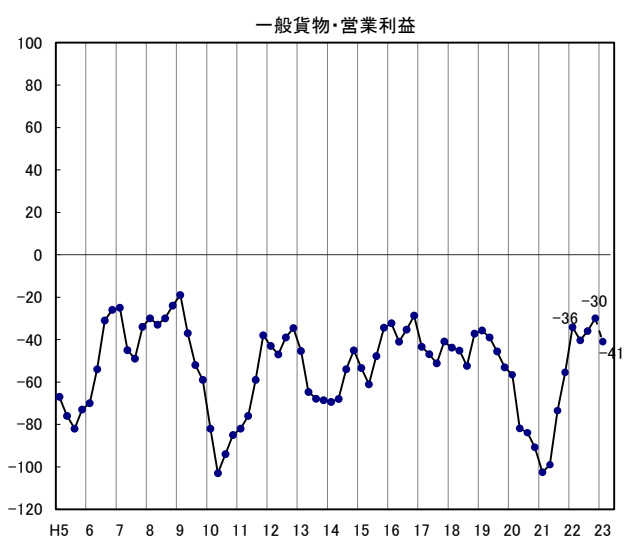
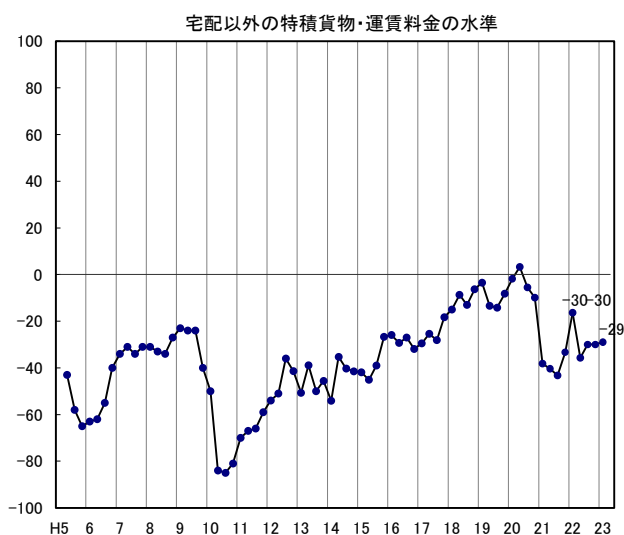
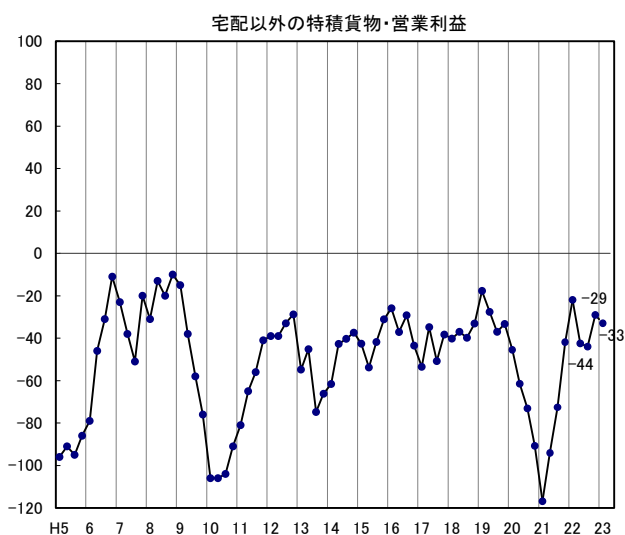
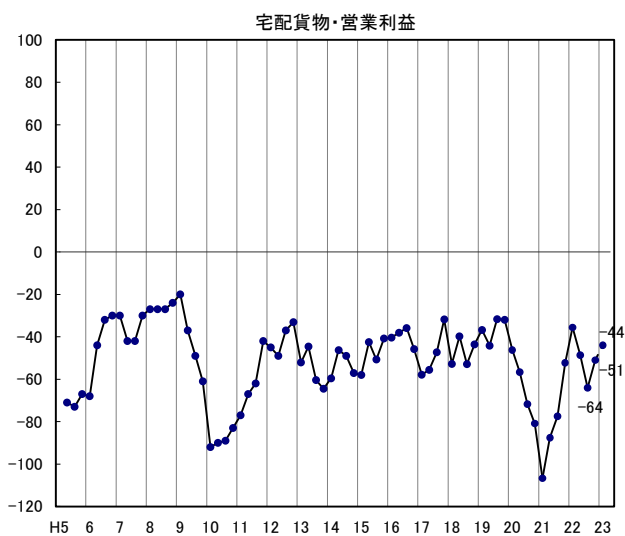
凡例

矢元： 7-9月期の実績	矢先： 10-12月期の実績	白丸： 1-3月期の見通し
-----------------	-------------------	------------------

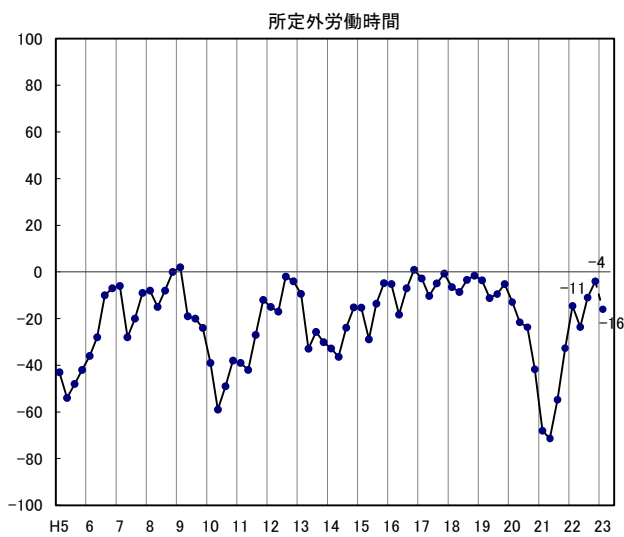
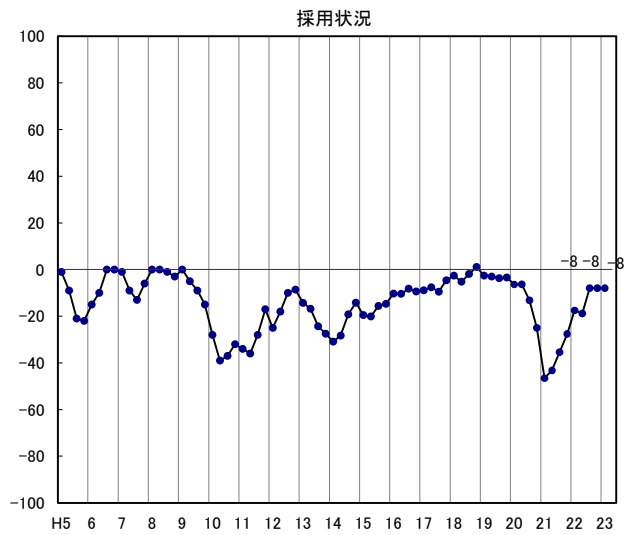
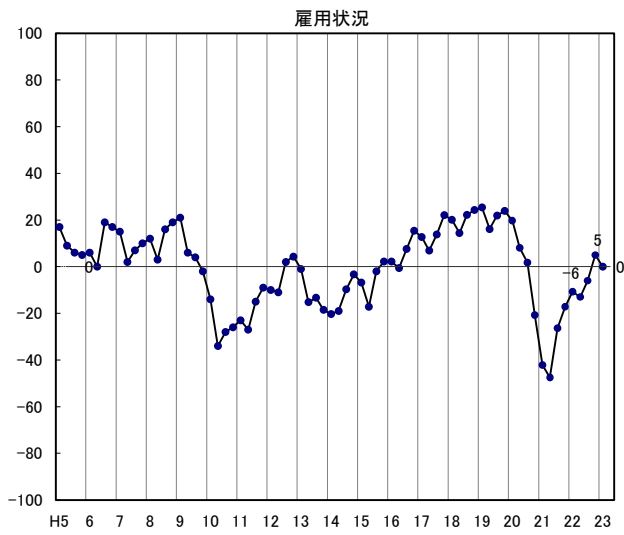
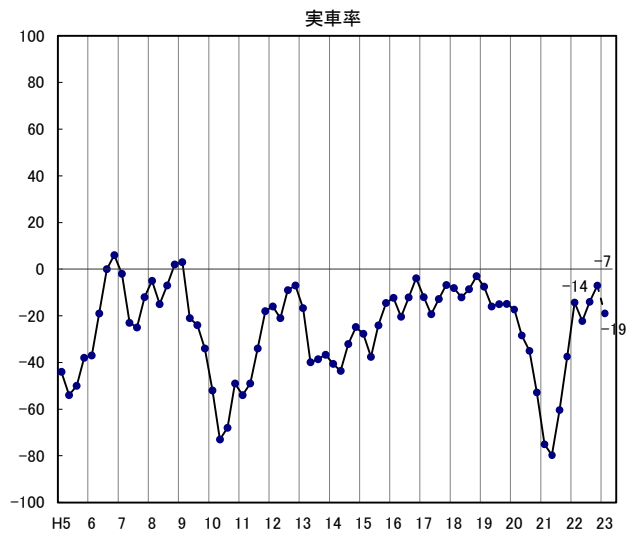
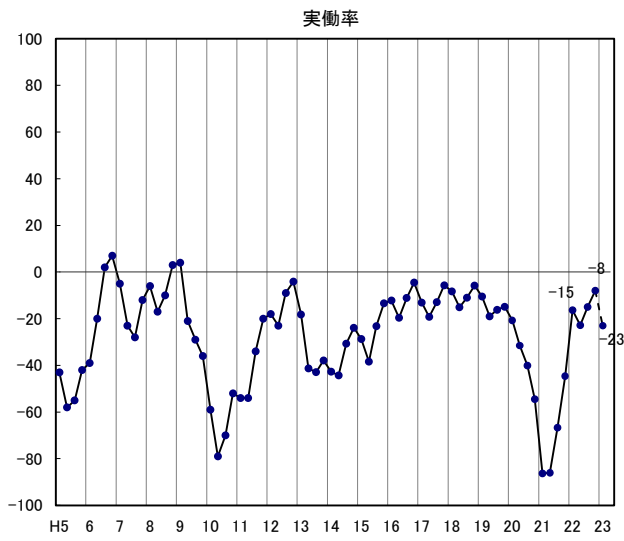
業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成22年第4四半期実績、平成23年第1四半期見通し



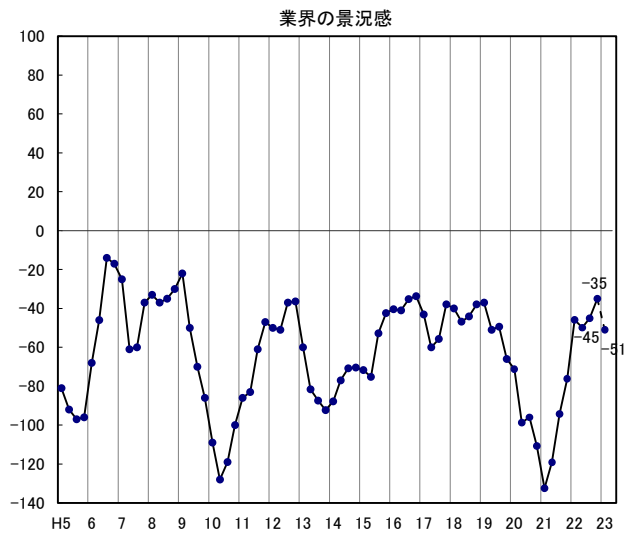
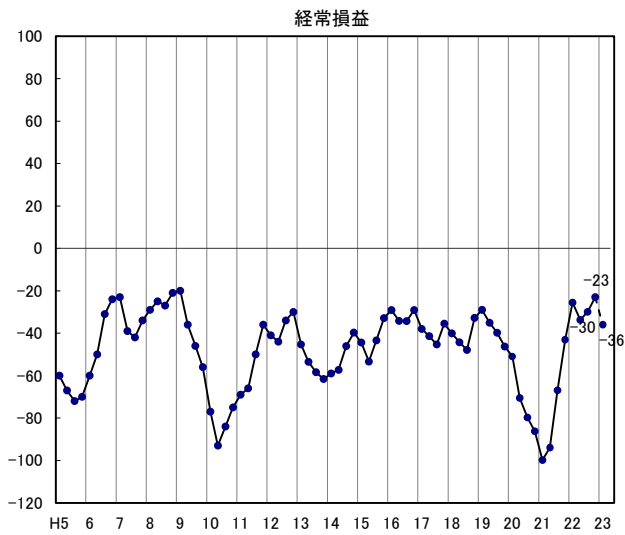
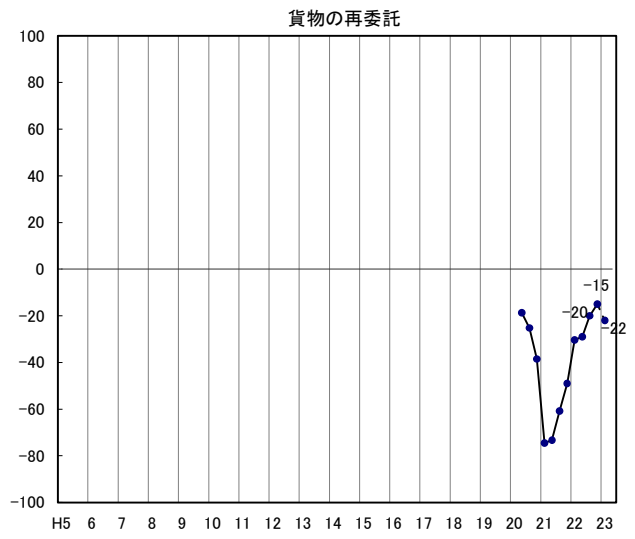
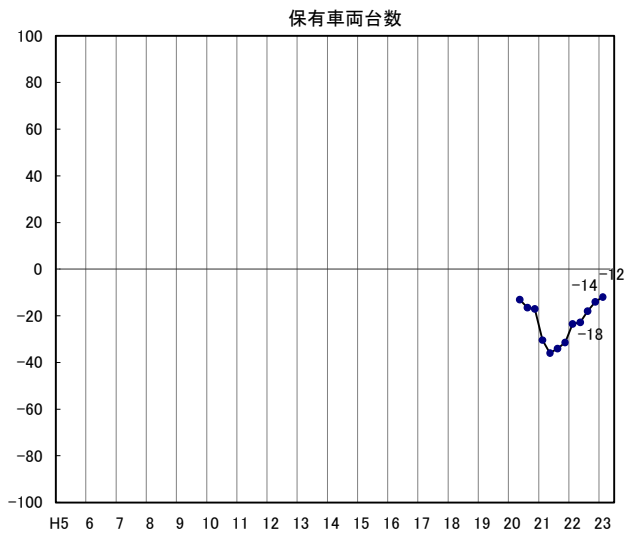
業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成22年第4四半期実績、平成23年第1四半期見通し



業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成22年第4四半期実績、平成23年第1四半期見通し

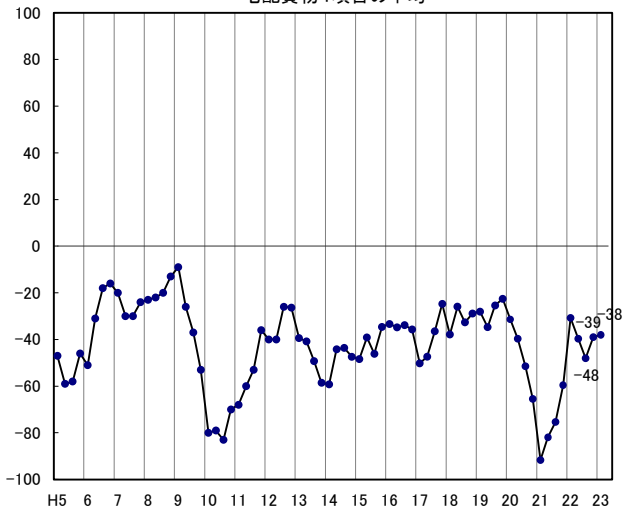


業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成22年第4四半期実績、平成23年第1四半期見通し

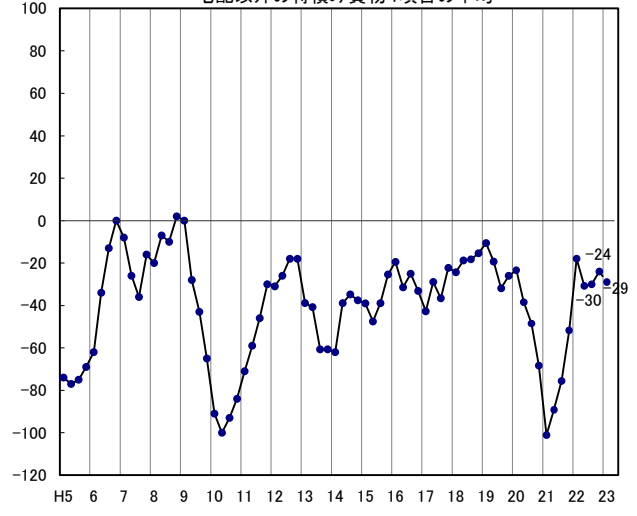


業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成22年第4四半期実績、平成23年第1四半期見通し

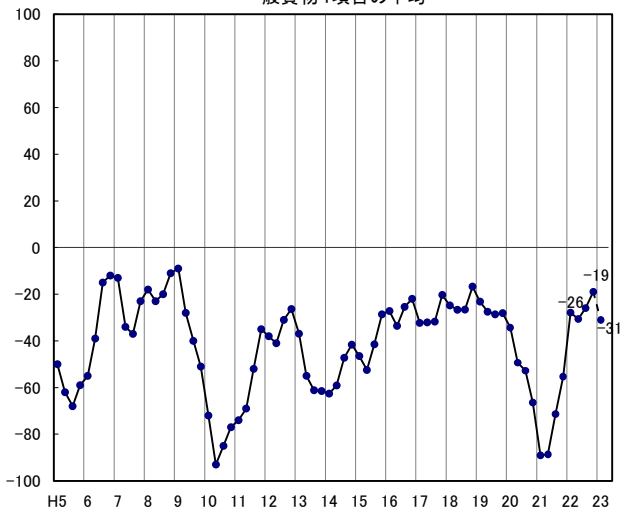
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均

